

介護の切り捨て許さない!

全体参加
約230名

第 11 回介護に働くなかまの 全国学習交流集会

怒りの総決起



4 日（月）に開催された「介護の切り捨て許さない！全国総決起集会」は会場いっぱいに参加者が集まり、利用者不在ですすめられる介護保険制度の改悪に対し怒りの総決起の場となりました。日本医労連からも昨年を上回る、3 全国組合 25 都道府県から 94 名が参加しました（翌日のみの参加を含めると 97 名）。

集会では、午前中に情勢学習を行い、午後からは特別報告で調査や自治体要請など各地の取り組み、被災地や利用者からの訴えがありました。日本医労連からも、米沢中執が医労連で実施した介護施設の夜勤実態調査の概要を発表し、深刻な夜勤実態とたたかいへの取り組みを報告しました。



利用者も参加。「『自分で』と言うが、できない事を実感する度に失望する」と涙されました。

参議院議員の田村 智子さんが激励に駆けつけました。「改悪は絶対に許さない！」とエール。



集会後、山田委員長も先頭に立って、巣鴨地蔵通りを抜けて巣鴨駅までパレード。縁日で沸く商店街で宣伝行動。

集会で確認した行動提起(抜粋)

- 1) 介護保険の改悪は中止し、制度改善と労働者の処遇改善を国の責任で実施することを求める運動を全国で広げましょう。各地で「学習会」、「集い」、「決起集会」などを開催しましょう。介護関係団体への要請や懇談をすすめましょう。
- 2) 各地で自治体に対する要請・懇談をすすめ、地方議会から介護保険改悪中止の決議を挙げましょう。
- 3) 各団体や地方が行う署名も含めて、職場・地域で署名の取り組みを広げましょう。

参加者を送り出して下さった職場の皆さんありがとうございました。

5日厚労省交渉に84名参加

要請項目と回答主旨



1 介護保険財政への国庫負担を増額し、介護報酬の大幅な引き上げを含めて、介護労働者の処遇を抜本的に改善してください。

A. ヘルパー不足は把握している。270万人に増やす計画。処遇改善は改定で検討。

2 介護労働者の処遇改善、働き続けられる環境をつくるためにも以下の施策を行ってください。

(1) 要支援者のサービスは市町村の事業に移さず、内容を充実してください。

A. 地域包括ケアは全国一律でできない。地域で重点的に実施してほしい。介護保険部会で検討していく。

(2) 利用者の負担割合の引き上げを実施しないでください。

A. 保険料の公平化・負担増大を抑えるために所得のある人を対象として負担増を検討している。

(3) 施設入所の対象者から軽度者を外さないでください。低所得者が安心して入所できるように費用負担の軽減制度を強化してください。

A. 重度者が入所できないから、新規入所を限定するものです。住まいの確保をすすめていきたい。

交渉で発言された現場実態

ヘルパーになって10年目。最初の訪問時間は100時間だったが、改悪で80時間、50時間と減っていった。これでは生活できない。

認知症グループホームで正規職員として働いている。53歳。月給は今手当てを含めて17万円、手取りで14万円。これが札幌の平均だ。2年半で14名のうち11名が変わった。今日も心配で電話したところ、3名のうち1名休みで、2名だと入浴ができない。自分は夜勤の時にトイレに行くのにも、耳をすませて注意を払っている。手を着くだけでも骨折する高齢者には細心の注意が必要だ。想像してもらいたい。処遇改善を真摯に考えて欲しい。職員が参ってしまう。

24時間定期巡回随時対応訪問介護看護事業所で働いている。職員は13人しかおらず、24時間365日のケアに対応できない。募集しても人が来ない。24時間対応のサービスについて国はいいことばかりは発表し、悪いことは出さない。人件費を削って採算をとっているのが現状だ。

自分は要支援2、夫は要介護2。夫の生活援助が30分削られた。ヘルパーが来るまでにあれこれ準備しておこうとするが、忘れてしまう。夫の生活援助が30分削られた負担が自分に来て、体調を崩して入院した。厚生労働省の方が、自分の家に来て助けたくれますか？できないでしょ。それをヘルパーがやってくれる。

国民会議に国民の代表は入っているのか。参加できるなら自分が参加したい。国民会議に国民の代表を入れて欲しい。利用者の声を真摯に受け止めて欲しい。自分がここまで回復したのも、ヘルパーの助けがあったから。自分は決して甘えてない。ただできないことを助けて欲しい。削った時間をもどしてほしい。

この他、団体要請を行い、午後にはヘルパーネット総会。